

前期高齢者の "お茶のみ" がソーシャル・サポート と主観的幸福感および交流の充実感に及ぼす影響(第37回保健学科学術研究会)

著者	齋藤 美華, 瀬川 香子
雑誌名	東北大学医学部保健学科紀要
巻	14
号	2
ページ	94-94
発行年	2005-07-31
URL	http://hdl.handle.net/10097/30863

演題 (2): 「前期高齢者の“お茶のみ”がソーシャル・サポートと主観的幸福感および交流の充実感に及ぼす影響」

講師: 齋藤美華 先生(看護学専攻, 地域保健看護学講座・老年看護学分野講師)

座長: 瀬川香子 先生(看護学専攻, 地域保健看護学講座助教授)

【目的】

高齢者間の社会交流の1つとして, 東北地方の農・漁村地域を中心に「お茶飲み」と称した習慣がある。市町村では, その「お茶飲み」の機能を生かして住民主体の高齢者健康づくり事業を行っている。しかし, 「お茶飲み」に関する研究はほとんどなく, その影響も明確ではない。そこで本研究では, 前期高齢者を対象に, 「お茶飲み」がソーシャル・サポートと主観的幸福感および交流の充実感に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

【方法】

M 県 T 町在住の前期高齢者 2,024 人の中から無作為抽出した 1,000 人を対象に郵送による質問紙調査を行った。分析対象は有効回答の得られた 703 人とした(回収数 753, 回収率 75.3%)。

調査内容は, 「お茶飲み」の参加の有無と頻度, ソーシャル・サポート, 主観的幸福感, 交流の充実感, 健康度, 社会経済的地位, 基本属性である。分析は, 「お茶飲み」との関連を明らかにするために t 検定を行った。また, 交絡因子との関連を一元配置分散分析, t 検定または Pearson の積率相関係数を用いて検討した。その後, ソーシャル・サポートと主観的幸福感および交流の充実感に対する「お茶飲み」の影響を明らかにするために重回帰分析(Stepwise 法)を行った。

【結果】

1. 分析対象の概要

分析対象は, 男性 318 人, 女性 385 人であり, 平均年齢は男性 68.9 ± 2.7 歳, 女性 68.7 ± 2.8 歳であった。

「お茶飲み」の参加の有無は「お茶飲み」ありが 67.9%, 「お茶飲み」なしが 32.1% であった。また,

「お茶飲み」の頻度は「月に 3~4 回」が 23.1% と最も多く, 続いて「月に 5~9 回」が 20.8% であった。

2. 「お茶飲み」がソーシャル・サポートに及ぼす影響

「お茶飲み」の参加の有無は, 友人・隣人・知人からの情緒的サポート ($p < 0.001$) と手段的サポート ($p < 0.001$), 別居の子どもまたは親戚からの手段的サポート ($p < 0.001$) において有意となり, いずれも「お茶飲み」ありの群が「お茶飲み」なしの群よりもサポートを受けているという認識が強かった。

次に, 重回帰分析を行った結果, 「お茶の飲み」の参加の有無は, 友人・隣人・知人からの情緒的サポートと手段的サポートに対して最も強い影響を及ぼす要因となった。

3. 「お茶飲み」が主観的幸福感および交流の充実感に及ぼす影響

「お茶飲み」の参加の有無は, 主観的幸福感 ($p < 0.05$), 交流の充実感 ($p < 0.001$) とともに有意となり, いずれも「お茶飲み」ありの群が「お茶飲み」なしの群よりも主観的幸福感, 交流の充実感を強く認識していた。

次に, 重回帰分析を行った結果, 「お茶飲み」の参加の有無は, 交流の充実感に対して影響を及ぼす要因となった。

【考察】

「お茶飲み」は, 人との交流をとおして充実感を高める働きがあり, 「お茶飲み」に参加している者は, 友人・隣人・知人からの情緒的サポートと手段的サポートを提供されていると認知していることが示唆された。また, 「お茶飲み」は社会的交流としての機能があることが確認できた。

文 献

- 1) 野口裕二: 高齢者のソーシャル・サポート その概念と測定, 社会老年学, 34, 37-48, 1991
- 2) Connidis, I.A., Davies, L.: Confidants and companions in later life: The place of family and friend, J. Gerontology, 45, 141-149, 1990